

伝統の凧 角凧



はじめに
日本には他の国に例をみないほど多くの種類の凧があります。各地域の習俗や地形に合わせて、独特の凧文化が生まれました。いろいろな形の凧に、思い思いの絵を載せて作ります。

また、凧は空の「やじるべえ」のようなもので、微妙なバランスによって大空に浮かびます。その奥深さが凧の魅力の一つでもあります。

自分の作品が大空に浮かぶ姿と自然の風が引く糸の感触は、多くの人を魅了してきました。その感動をぜひ体験してみてください。

内容物			
本体（和紙）	1枚	揚げ糸（カード巻き3.5m）	1個
横骨	1本	糸目合わせ板	1枚
縦骨	1本	つまようじ	1本
筋かい骨	2本セット	荷札	1枚
補強紙	1枚	木工用ボンド	1個
反り糸（90cm）	1本		
糸目糸（180cm）	1本		
	（90cm）2本		

作り方

1

切り込み
中心を示す穴
糸目を通す穴

本体にあるピン穴や切り込みの位置を確認して下さい。

2

紙の表側に絵を描く。
ツルツルした方が表で、切り込みのある方が上になります。

3

横骨を貼る。
切り込みの上側に貼り、左右が同じ長さだけ出るようにする。
骨は全て、竹の身の方に木工用ボンドを塗って貼る。

4

補強紙を貼る。
図のように、横骨の上に補強紙を貼る。

5

縦骨を貼る。
上の部分が、横骨より上に出ないようにし、ピン穴の間にくるように貼る。

6

筋かい骨を貼る。
2本とも、セロテープの付いた方が天になるように貼る。図のように、上部の切り込みに差し込んで横骨の下を通す。

7

補強紙

天の紙の部分にボンドを付けて、折り返して貼る。
さらに、図のように補強紙を貼る

8

反り糸を付ける。
90cmの糸を図のようにくくりつける。この時、凧は反らさないで横骨と同じ長さ分糸を張る。

9

糸のくくり方

反り糸を付けるときも、糸目をつけるときも同じようにくくる。

10

18cm
14.3cm

図のように糸目をつけるところにピン穴があるので確認する。

11

90cmの糸
180cmの糸

糸目をつける。
凧の表から、図のように上の両隅とピン穴のところに糸をくくりつける。

12

7~8cm

反り糸を片方の竹に巻き付けて、凧を反らせる。
反りの深さが7~8cmになるようにする。

13

くくり方

糸目の長さを調整してくる。
まず、両隅の2本と一番下の糸をまとめて、糸目合わせ板に通す。次に糸目合わせ板を凧の天から1.9cmの糸目の付いている位置に合わせておさしておく。図のように3本の糸を指ですごいて長さが均一になるようにし、いっしょにくくる。

14

3本の糸で凧を持ち上げ、まん中の4本目の糸をそえる。
真ん中の糸が少したるむ程度で4本をそろえていっしょにくくる。

15

しっぽを付ける。
1枚ないし2枚のシっぽを付ける

糸目がうまく調整できれば、しっぽがなくてもまっすぐにあげることができます